

## 資料 1

松原市立布忍小学校において同和教育時代の実践として「集団づくり」に関してまとめた資料

### 集団づくりを日常的に取り組むための、5つの大切な指導性（1985年）

- (1) 説得と納得の指導
- (2) 厳しさとやさしさを統一した指導
- (3) 家庭と連携して子どもの家での自立と親との信頼関係を深める指導
- (4) 子どもの「よさ」に依拠し、思い（ハート）をもって迫れる指導
- (5) 子どもに寄り添う指導

### 年間を通しての集団づくりの見通しをもつ

- (1) 子どもたちの自然なぶつかり合いを大切にする。そしてその指導を通じて、できるだけ迅速かつ的確に子どもの気持ちをつかむこと。
- (2) 子どもの仲間を求める思いを、その子の具体的な行動や表現を通して明らかにする。その子のその思いに周りの子どもたちの思いを重ねて、共感的理解を広げる。
- (3) 周りの友だちがその子を見つめる思い（否定的側面、積極的側面）を率直に出させ、相互の思いの共有と共感的理解を組織すること。
- (4) そうしてできたつながりを典型にして、更に、ほかのつながりへと広げていくこと。
- (5) そのような集団づくりの一年間を通じた戦略の中に、遊び・学習・終わりの会・学級会・人権学習等の日常の場面を位置付けること。

「1988年度の総括会議の報告文」より

### 学級経営のポイント

- (1) 「個から集団へ」そして「集団から個へ」の指導の道筋を具体的に明らかにすること。それは、個の問題を集団に投げ返し、それをテコに集団の質を高め、個に返す指導方法。
- (2) 人権学習を学級経営のポイントにする。それは、様々な課題を持つ子の思いに、仲間を引き付けることを通じた集団の質（価値観）の転換である。
- (3) 子どもたちの気持ちをつなぐ（思いを共有する）実践を学級経営の要にする。
- (4) 集団の中に「けじめ」を位置づけること。この場合の「けじめ」はただ単なる枠はめのことではなく、集団の中での善意な行動、原則的な行動である。
- (5) 班替えを集団づくりの戦略の要にし、新たな課題づくりのために大切にする。また、班替えの過程を通じて、学級の人間関係の全体をつかむことを大切にする。

「1989年度の総括会議の報告文」より

### 引用文献

松原市立布忍小学校教師集団 「私たちがめざす集団づくり」 解放出版社 2002年 PP.71-73

## 資料2：学習指導要領における「人間関係」の記載に関して

表1：小学校学習指導要領における「人間関係」の記載に関して

	章	領域	項目	記載内容	場面	新記載
1	第1章	総則	第1-2	道徳教育を進めるに当たっては、教師と児童及び児童相互の人間関係を深めるとともに（後略）	道徳	
2	第1章	総則	第4-2-(3)	日ごろから学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること（後略）	生徒指導	
3	第3章	道徳	第3-1-(3)	高学年においては、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、自己の生き方についての考えを一層深められるよう指導を工夫すること（後略）	道徳	★
4	第3章	道徳	第3-4	道徳教育を進めるに当たっては、学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに（後略）	道徳	
5	第6章	特別活動	第1 目標	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに（後略）	特別活動	★
6	第6章	特別活動	第2-1 目標	学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し（後略）	学級活動	★
7	第6章	特別活動	第2-2-(2)-ウ	望ましい人間関係の形成	学級活動	
8	第6章	特別活動	第2-1 目標	児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し（後略）	児童会活動	★
9	第6章	特別活動	第2-1 目標	クラブ活動を通して、望ましい人間関係を形成し、個性の伸長を図り、集団の一員として協力してよりよいクラブづくりに参画しようとする自主的、実践的な態度を育てる。	クラブ活動	★
10	第6章	特別活動	第2-1 目標	学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め（後略）	学校行事	★
11	第6章	特別活動	第2-2-(4)	人間関係などの集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと（後略）	遠足 集団宿泊的行事	★
12	第6章	特別活動	第3-2-(1)	よりよい生活を築くために集団としての意見をまとめるなどの話し合い活動や自分たちできまりをつくって守る活動、人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫すること（後略）	学級活動・児童会活動・クラブ活動	★

表2：中学校学習指導要領における「人間関係」の記載に関して

	章	領域	項目	記載内容	場面	新記載
1	第1章	総則	第1-2	道徳教育を進めるに当たっては、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに（後略）	道徳	
2	第1章	総則	第4-2-(3)	教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め、生徒が自主的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことができるよう、生徒指導の充実を図ること（後略）	生徒指導	
3	第2章	教科	第2-2-H-2-イ	運動やスポーツは、ルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること（後略）	保健体育	★
4	第2章	教科	第2-(4)-ウ	これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから（後略）	保健体育	
5	第3章	道徳	第3-1-(4)	悩みや葛藤等の思春期の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、道徳的価値に基づいた人間としての生き方について考えを深められるよう配慮すること（後略）	道徳	★
6	第3章	道徳	第3-4	道徳教育を進めるに当たっては、学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに（後略）	道徳	
7	第5章	特別活動	第1 目標	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、（後略）	特別活動	★
8	第5章	特別活動	第2-1 目標	学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し（後略）	学級活動	★
9	第5章	特別活動	第2-2-(2)-オ	望ましい人間関係の確立	学級活動	★
10	第5章	特別活動	第2-1 目標	生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し（後略）	生徒会活動	★
11	第5章	特別活動	第2-1 目標	学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め（後略）	学校行事	★
12	第5章	特別活動	第3-1-(3)	学校生活への適応や人間関係の形成、進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう〔学級活動〕等の指導を工夫すること（後略）	学級活動	
13	第5章	特別活動	第3-2-(1)	人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫すること（後略）	学級活動・生徒会活動	★

表3：高等学校学習指導要領における「人間関係」の記載に関して

	章	領域	項目	記載内容	場面	新記載
1	第1章	総則	第5-5-(3)	教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め、生徒が主体的に判断、行動し積極的に自己を生かしていくことができるよう、生徒指導の充実を図ること（後略）	生徒指導	
2	第5章	特別活動	第1 目標	望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、（後略）	特別活動	★
3	第5章	特別活動	第2-1 目標	ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画し（後略）	ホームルーム活動	★
4	第5章	特別活動	第2-2-(2)-オ	コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立	ホームルーム活動	
5	第5章	特別活動	第2-1 目標	生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し（後略）	生徒会活動	★
6	第5章	特別活動	第2-1 目標	学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い（後略）	学校行事	★
7	第5章	特別活動	第3-1-(3)	学校生活への適応や人間関係の形成、教科・科目や進路の選択などの指導に当たっては、ガイダンスの機能を充実するよう〔ホームルーム活動〕等の指導を工夫すること（後略）	ホームルーム活動	
8	第5章	特別活動	第3-2-(1)	人間関係を形成する力を養う活動などを充実するよう工夫すること。	ホームルーム活動 生徒会活動	★

※教科科目について、上記に掲載していません。

なお、記載のあった教科科目は、「商業」「家庭」「看護」「福祉」であった。

表4：特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領における「人間関係」の記載に関して

	章	部	領域	項目	記載内容	場面	新記載
1	第2章	幼稚部		第2	人とかかわりに関する領域「人間関係」		
2	第2章	幼稚部		第2-2-(3)	人間関係の形成	自立活動	★
3	第1章	小中学部	総則	第2節-第2-2	小学部において道德教育を進めるに当たっては、教師と児童及び児童相互の人間関係を深めるとともに（後略）	道德教育	▲
4	第1章	小中学部	総則	第2節-第2-2	中学部において道德教育を進めるに当たっては、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに（後略）	道德教育	▲
5	第1章	小中学部	総則	第4-2-5	教師と児童生徒の信頼関係及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童生徒理解を深め、生徒指導の充実を図ること（後略）	生徒指導	
6	第7章	小中学部	自立活動	第2-3	人間関係の形成	自立活動	★
7	第1章	高等部	総則	第2-5-(5)	教師と生徒の信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てるとともに生徒理解を深め（後略）	生徒指導	
8	第3章	高等部	道德	第2-3	道德教育を進めるに当たっては、学校や学級内の人間関係及び環境を整えるとともに（後略）	道德	★
9	第6章	高等部	自立活動	第2-3	人間関係の形成	自立活動	★

※▲は、新たに小学部・中学部別に分割して記載したため。

## 資料3

### 学習指導要領解説における「人間関係」に関する記載について

#### 1 小学校

小学校での改訂の要点としては、特に「特別活動」において、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動であることを一層明確にするため、目標に「人間関係」を加えたことである。

また、小学校の学級経営については、学級担任の営みの重要についても「小学校学習指導要領解説 総則編」(平成20年)において、次のように記されている<sup>(1)</sup>。

学級担任の教師は、学校・学年経営を踏まえて、調和のとれた学級経営の目標を設定し、指導の方向及び内容を学級経営案として整える等、学級経営の全体的な構想を立てるようになる必要がある。

学級経営を行ううえで最も重要なことは学級の児童一人一人の事態を把握すること、すなわち確かな児童理解である。一人一人の児童はそれぞれ違った能力・適性、興味・関心等を持っている。学級担任の教師の、日ごろのきめ細かい観察を基本に、面接など適切な方法を用いて、一人一人の児童を客観的かつ総合的に認識することが児童理解の第一歩である。日ごろから、児童の気持ちを理解しようとする学級担任の教師の姿勢は、児童との信頼関係を築くうえで極めて重要であり、愛情をもって接していくことが大切である。

また、学級を一人一人の児童にとって存在感を実感できる場としてつくりあげることが大切である。学級担任の教師の毅然とした対応を行いつつ、相手の身になって考え、相手のよさを見付けようと努める学級、お互いに協力し合い、自分の力を学級全体のために役立たせようとする学級である。

さらに、集団の一員として、一人一人の児童が安心して自分の力を発揮できるよう、日ごろから、児童に自己存在感や自己決定の場を与え、その時その場で何が正しいかを判断し、自ら責任をもって行動できる能力を培うことが大切である。

また、「道徳」については、「小学校学習指導要領解説 道徳編」(平成20年)において、「道徳の時間の指導は、学級での温かい人間関係が基盤にあってこそ効果を発揮する。教師と児童の信頼関係や児童相互の人間関係を育て、一人一人が自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現することができる雰囲気や日常の学級経営の中でつくるようにする。また、それを生かした授業をすることによって、人間関係を一層育てていくようにすることが大切である」と述べられている<sup>(2)</sup>。

更に人間関係の充実に関しては、「児童の道徳性は、日々の人間関係の中で培われる。学校や学級における人的な環境は、主に教師と児童及び児童相互のかかわりにおいて形成される。人間関係に関する指導においては、特に、道徳の内容の視点である『主として他の人とのかかわりに関すること』に含まれる内容項目が実践できるような状況をつくるように心掛ける必要がある」と述べたうえで<sup>(3)</sup>、具体として、次の3点を指摘している。

#### ①教師と児童の人間関係

教師と児童の人間関係においては、教師に対する児童の尊敬と、児童に対する教師の教育的愛情、そして相互の信頼が基本になる。したがって、教師には児童を尊重し受容する態度及び児童の成長を願う教育的愛情が不可欠である。また、教師自身がよりよく生きようとする姿勢をもつことによって、自己を常に向上させようとしている児童の強い共感を呼び、それが信頼関係の強化につながる。これらのためにも、教師と児童が共に語り合うことのできる場を日常から設定し、児童を理解する有効な機会となるようにしていくことが大切である。

## ②児童相互の人間関係

児童相互の人間関係を豊かにするには、相互の交流を深め、互いが伸び伸びと生活できる状況をつくることが大切である。児童一人一人が互いに認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う場と機会を積極的に設けるとともに、児童の人間関係が常に変化していることを踏まえ、座席換えやグループ編成の在り方などについて不断の見直しを図る必要がある。

## ③様々な人との人間関係

学校における人間関係として、これらのほかに、学校で働く人や学校を訪問する保護者や地域の人々などと児童との交流がある。学校では、学年や学校全体、更に家庭や地域社会と連携して、幅広い人とのかかわりを生み出していくことが求められる。様々な人と触れ合い、多様な人間関係を体験すること自体が、相手への配慮や思いやり、協力や感謝の気持ちなどの道徳性を高める重要な機会となる。そのことを意識した指導が望まれる。

と記されている<sup>(4)</sup>。

## 引用文献

- |           |                   |         |             |
|-----------|-------------------|---------|-------------|
| (1) 文部科学省 | 「小学校学習指導要領解説 総則編」 | 平成 20 年 | PP. 57－58   |
| (2) 文部科学省 | 「小学校学習指導要領解説 道徳編」 | 平成 20 年 | P. 79       |
| (3) 文部科学省 | 同上書               | 平成 20 年 | PP. 113-115 |
| (4) 文部科学省 | 同上書               | 平成 20 年 | PP. 113-115 |

## 2 中学校

中学校での改訂の要点としては、小学校と同様に「特別活動」において、目標に「人間関係」を加えたことである。

生徒指導との関連については、「中学校学習指導要領解説 総則編」（平成 20 年）において、次のように述べられている。

「学校教育は、集団での活動や生活を基本とするものであり、学級や学校での生徒相互の人間関係の在り方は、生徒の健全な成長と深くかかわっている。生徒一人一人が存在感をもち、共感的な人間関係をはぐくみ、自己決定の場を豊かにもち、自己実現を図っていける望ましい集団の実現は極めて重要である。すなわち、自他の個性を尊重し、互いの身になって考え、相手のよさを見つけようと努める集団、互いに協力し合い、主体的によりよい人間関係を形成していこうとする集団、言い換えれば、好ましい人間関係を基礎に豊かな集団生活が営まれる学級や学校の教育的環境を形成することは、生徒指導の充実の基盤であり、かつ生徒指導の重要な目標の一つでもある。教育機能としての生徒指導は、教育課程の特定の領域における指導ではなく、教育課程の全領域において行わなければならないものである」と指摘している<sup>(1)</sup>。

道徳教育については、「生徒相互の好ましい人間関係や生徒と教師の信頼関係が確立していなければ実質的な効果は期待できないものであり、この点については日ごろから十分配慮する必要がある。その際、教師は、生徒が人間としての生き方について考えを深められるよう、生徒とともに考え、悩み、感動を共有していくという姿勢で指導に当たることも大切である」と述べられている<sup>(2)</sup>。

また、第 3 章道徳第 3 では、「悩みや葛藤(かっとう)等の思春期の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、道徳的価値に基づいた人間としての生き方についての考えを深められるよう配慮すること」が規定されている<sup>(3)</sup>。

なお、道徳に関する内容としては、「中学校学習指導要領解説 道徳編」（平成 20 年）において、「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ」の文言から「感謝」を取り出し、新たに 2－(6)「多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる」として 2 つの内容項目に分け、全体の項目数を 24 項目と

した。これまで「感謝」にかかる内容は、主として他の人から受けた思いやりに対する人間としての心の在り方であることから、「思いやり」にかかる内容と表裏一体のものとして合わせて一つの内容としてきたが、小学校における内容との接続や系統性を踏まえるとともに、自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図る指導を一層充実する観点からこのような改善を図ったものであると説明している<sup>(4)</sup>。

更に道德教育を進めるにあたって、「学級や学校の環境を整える」ことに、「人間関係」を整えることが加えられた<sup>(5)</sup>。

「特別活動」に関しては、「中学校学習指導要領解説 特別活動編」(平成 20 年)において、自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係を築けず社会性の育成が不十分であったりする状況が見られたりすることから、それらにかかわる力を実践を通して高めるための「体験活動や生活を改善する話し合い活動」「多様な異年齢の子どもたちからなる集団による活動」を一層重視することが挙げられている<sup>(6)</sup>。

また、「学級活動で育てたい『望ましい人間関係』とは、豊かで充実した学級生活づくりのために、生徒一人一人が自他の個性を尊重するとともに、集団の一員としてそれぞれが役割と責任を果たし、互いに尊重しよさを認め発揮し合えるような開かれた人間関係である」と求める人間関係の具体についても記述している<sup>(7)</sup>。

また、生徒の実態として、「生徒は、家庭における人間関係、学校における生徒間の多様な人間関係、教師と生徒の人間関係、地域の人間関係など様々な人間関係の中で生きている。小学校時代に比べ、子どもたちを取り巻く人間関係も、学級を中心とした友だちという関係に加え、学年の中での人間関係、さらには部活動などにおける先輩・後輩という人間関係なども生まれてくる。また、生徒会や地域の集団などの活動を通して、人間関係もより広がりをもってくる。これら様々な人間関係について振り返らせ、その集団の中での行動の仕方や生き方について考え、望ましく円滑な人間関係の確立に資するようにすることが大切である」と述べ、具体的には、「望ましい人間関係の在り方、豊かな人間関係づくりと自己の成長、自己表現とコミュニケーション能力などの題材を設定し、ロールプレイングや体験発表を取り入れた話し合い、自己表現力やコミュニケーション能力を高める体験的な活動、学級成員等の親睦を深める活動など、様々な展開の工夫が考えられる」と具体的な活動例にも触れている<sup>(8)</sup>。

## 引用文献

- |           |                     |         |           |
|-----------|---------------------|---------|-----------|
| (1) 文部科学省 | 「中学校学習指導要領解説 総則編」   | 平成 20 年 | PP. 57-58 |
| (2) 文部科学省 | 同上書                 | 平成 20 年 | P. 67     |
| (3) 文部科学省 | 同上書                 | 平成 20 年 | P. 23     |
| (4) 文部科学省 | 「中学校学習指導要領解説 道德編」   | 平成 20 年 | P. 9      |
| (5) 文部科学省 | 同上書                 | 平成 20 年 | P. 14     |
| (6) 文部科学省 | 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」 | 平成 20 年 | PP. 3-4   |
| (7) 文部科学省 | 「中学校学習指導要領解説 特別活動編」 | 平成 20 年 | P. 25     |
| (8) 文部科学省 | 同上書                 | 平成 20 年 | PP. 34-35 |

## 3 高等学校

高等学校での改訂の要点としては、特別活動において、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事ごとに目標を新たに規定し、「望ましい人間関係を形成し」という文言が記されたことである。

「高等学校学習指導要領解説 総則編」においては、生徒指導との関連について、「学校教育は、集団での活動や生活を基本とするものであり、ホームルームや学校での生徒相互の人間関係の在り方は、生徒の健全な成長と深くかかわっている。生徒一人一人が存在感をもち、共感的な人間関係をはぐくみ、自己決定の場を豊かにもち、自己実現を図っていく望ましい集団の実現は極めて重要である。自他の個性を尊重し、主体的によりよい人間関係を築いていこうと



する教育的環境を形成することは、生徒指導の充実の基盤であり、かつ生徒指導の重要な目標の一つでもある。単位制による課程をはじめとして、教育課程における選択の幅の大きい高等学校にあっては、日常の授業の集団とホームルーム集団とが一致しない場合も多いだけに、このことはとりわけ重要である」と記されており<sup>(1)</sup>、高等学校における「集団」の重要性について指摘されている。

また、「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」では、ホームルームの役割と目標について、次のように記されている。

「ホームルームは、学校における生徒の生活の単位組織として、ホームルームとしての固有の生徒の活動が行われるとともに、学校における生徒の様々な活動の基盤としての役割を果たす場である。また、学校における生徒指導（進路指導を含む。以下同じ）を進めるための基礎的な場として最も適しており、生徒が心理的に最も安定して帰属できる『心の居場所』としての意義も大きい。相互の受容と共感による親密な人間関係に基づく家庭的な雰囲気の中で行われるホームルーム活動は、ホームルームや学校での集団生活上の問題や個々の生徒が直面する諸課題などを、自主的に解決し処理していくような活動を行うとともに、それらの活動を通して、ホームルームや学校生活への適応と、その充実・向上を図り、健全な生活態度を身に付け他者と共生しながら自己実現を図っていく活動である。このようなホームルームにおける望ましい集団活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画し、ホームルームや学校生活にかかわる諸問題や、生徒の発達の課題に即した諸課題を解決しつつ社会的に自立しようとする自主的、実践的な態度を育成することがホームルーム活動の目標である」と明記されている<sup>(2)</sup>。

更に具体的な取組の視点として、「入学直後やホームルーム編成替えなど新たな人間関係を築くことが求められる時期には、自分の長所・短所、友人への期待と励まし、自他の個性を知り、それを生かす方法などの題材を設定し、自らを振り返ると同時に、グループやホームルーム全体で話し合う活動などが考えられる」が挙げられている<sup>(3)</sup>。

また、具体的なはぐむ力については、「人間関係を形成する力や自己表現力、他者への思いやり、正義感、連帯感や協力心などをはぐむ取組を積極的に進めていく必要がある。社会的な自立を目指そうとする高校生段階から、コミュニケーション能力の育成と多様な人間関係の確立は重要な課題であり、他者の言葉や意見に耳を傾け、自分の考えや思いを適切に表現する力、様々な集団において望ましい人間関係を築く力を高めることが求められている」としている<sup>(4)</sup>。

更に「人間関係を形成する力を養うためには、ホームルーム活動の活動内容の指導において、常に生徒同士の人間関係形成能力の育成に配慮することも重要であり、望ましい人間関係やよりよい集団生活を形成するのに必要な社会的なスキルを学ぶ場を適宜設けることも必要である。こうした様々な取組を通して、コミュニケーション能力や人間関係形成能力を高めることは重要であるが、同時に、実際にホームルームで課題とすべき諸問題を解決しようとする過程において、実践的に人間関係を形成する力が培われるような配慮が必要である。その過程での様々な活動の中で、人間関係に問題が生じることが少なくなく、その際に人間関係の問題に適切に対処し、関係改善を図ろうとする態度を育成することが重要である。人間関係を形成する力は、ホームルームの中の現実の人間関係を高める中で一層養われていくものであろう」と記されている<sup>(5)</sup>。

## 引用文献

- |           |                      |         |       |
|-----------|----------------------|---------|-------|
| (1) 文部科学省 | 「高等学校学習指導要領解説 総則編」   | 平成 20 年 | P. 69 |
| (2) 文部科学省 | 「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」 | 平成 20 年 | P. 17 |
| (3) 文部科学省 | 同上書                  | 平成 20 年 | P. 22 |
| (4) 文部科学省 | 同上書                  | 平成 20 年 | P. 24 |
| (5) 文部科学省 | 同上書                  | 平成 20 年 | P. 39 |

資料4：人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕における「人間関係」「人間関係づくり」「集団づくり」の表記についての分類表

	人間関係	人間関係づくり	集団づくり
指導等の在り方編	<p>★教職員同士、児童生徒同士、教職員と児童生徒等の間の人間関係や (P. 9)</p> <p>★③自分の要求を一方的に主張するのではなく建設的な手法により他の人との人間関係を調整する能力 (P. 9)</p> <p>★児童生徒間の望ましい人間関係を形成し、人権尊重の意識と実践力を養う学習活動を展開していく (P. 11)</p> <p>★学校においては、学級・ホームルーム活動における集団指導や、様々な場面における個別指導等の中で、自己指導能力の育成を目指した積極的な生徒指導の活動の展開を図り、児童生徒間の望ましい人間関係を形成するとともに (P. 12)</p> <p>★児童生徒の肯定的なセルフイメージの形成を支援すること、受容的・共感的・支持的な人間関係を育成すること (P. 13)</p> <p>★児童生徒が、多くの時間を過ごすそれぞれの学級の中で、自他のよさを認め合える人間関係を相互に形成していけるようにすることが重要であり、このような観点から学級経営に努めなければならない (P. 14)</p> <p>★学ぶことの楽しさを体験させ、望ましい人間関係等を培い、学習意欲の向上に努めることが求められている (P. 15)</p>	<p>★これらの力や技能を着実に培い、児童生徒の人権感覚を健全に育んでいくために、「学習活動づくり」や「人間関係づくり」と「環境づくり」とが一体となった、学校全体としての取組が望まれる (P. 9)</p> <p>★技能を学ぶ学習においては、例えばエンカウンターのような、児童生徒の人間関係づくりのための手法やプログラムの活用も念頭に置き (P. 27)</p>	<p>★「学級<u>集団づくり</u>の目標の設定」(P. 15の表中)</p> <p>★<u>集団づくり</u> (P. 40の表中)</p> <p>※下記の表3-6</p> <p>★<u>集団づくり</u> (P. 42の表中)</p> <p>※下記の表3-4</p>
実践編		<p>★互いを尊重し合う<u>人間関係づくり</u>を行う (P. 3の表中)</p> <p>★人権が尊重される<u>人間関係づくり</u>・雰囲気づくり (P. 5の表題)</p> <p>★コミュニケーション力や共感力等の育成(豊かな<u>人間関係づくり</u>)など (P. 7)</p> <p>★相互に人権を尊重し、支え合う<u>人間関係づくり</u>を援助 (P. 13)</p> <p>★学級における協力的な<u>人間関係づくり</u>と自主的なルールづくりの取組 (P. 44の表題)</p> <p>★児童生徒の<u>人間関係づくり</u>を促進するため (P. 79の表題)</p>	<p>★人権を尊重し支え合う<u>集団づくり</u>(人間関係づくり)に取り組んでいる (P. 13の表中)</p> <p>★児童生徒理解・<u>集団づくり</u>に関する研修 (P. 80の表題)</p>

※なお、〔三次とりまとめ〕の表や図中に見られる表記は割愛している。

また、上記表中の下線は、筆者によるものである。

更に、上記表中のページ番号は、〔三次とりまとめ〕の冊子における番号である。

資料5：「人間関係づくり」に関するアンケート 質問紙

**I あなた自身のことについてお答えください。**

- 1 あなたの所属校種を教えてください。  
( 1. 小学校 2. 中学校 3. 高等学校 4. 特別支援学校 )
- 2 あなたの性別を教えてください。  
( 1. 女性 2. 男性 )
- 3 あなたの年齢について教えてください。  
( 1. 20歳以上 2. 30歳以上 3. 40歳以上 4. 50歳以上 )

**II 「人間関係づくり」に対するイメージについてお答えください。**

- 4 教職員が持つ「人間関係づくり」のイメージを把握することを目的とした設問です。  
下記の小問1～12について、4段階の中であなたのイメージに最も近い回答の番号に「○」印を付けてください。

小問1	1	明るい	2	やや明るい	3	やや暗い	4	暗い
小問2	1	楽しい	2	やや楽しい	3	ややつまらない	4	つまらない
小問3	1	自由がある	2	やや自由がある	3	やや堅苦しい	4	堅苦しい
小問4	1	自主的	2	やや自主的	3	やや強制的	4	強制的
小問5	1	本音	2	やや本音	3	ややタテマエ	4	タテマエ
小問6	1	主体的	2	やや主体的	3	やや従属的	4	従属的
小問7	1	あたたかい	2	ややあたたかい	3	やや冷たい	4	冷たい
小問8	1	のんびり	2	ややのんびり	3	ややせわしい	4	せわしい
小問9	1	安心	2	やや安心	3	やや不安	4	不安
小問10	1	気楽	2	やや気楽	3	やや気が重い	4	気が重い
小問11	1	おもしろい	2	ややおもしろい	3	あまりおもしろくない	4	おもしろくない
小問12	1	役に立つ	2	やや役に立つ	3	あまり役に立たない	4	役に立たない

**III 人間関係づくりについてお答えください。**

- 5 あなたは、人間関係づくりが学校の教育活動として必要だと思いますか。  
( 1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない 4. 思わない )



※「7」の質問へ

- 6 「質問5」で「1・2・3」と回答した人にお聞きします。なぜ必要だと思われるのか、児童生徒の実態（課題）、社会や地域、家庭等の背景に関する理由でもかまわないので記入してください。

- 7 あなたは、下記の1～10の場面で人間関係づくりの取組を行った（行っている）ことがありますか。ある方は、該当するものに「○」印を付けてください（複数可）。ない人は11に○を。※1のSHRとは、ショートホームルーム。2のLHRとは、ロングホームルームのことです。
- |               |               |            |         |
|---------------|---------------|------------|---------|
| 1. 朝・帰りの会、SHR | 2. 学級会、学活、LHR | 3. 掃除      | 4. 給食指導 |
| 5. 総合的な学習の時間  | 6. 道徳の時間      | 7. 教科指導    | 8. 学校行事 |
| 9. 係り活動       | 10. 生徒会活動     | 11. その他（ ） |         |

8 あなたが「質問7」で「○」印を付けたもので、効果があったと感じる場面上位3つを選び、下記の空欄にその数字を記入してください。

「1番目」に効果があった( ) 「2番目」に効果があった( ) 「3番目」に効果があった( )

9 あなたが「質問8」で答えた効果があったと感じる場面で、具体的にどのような活動をしたのか記入してください。

※(例) 大縄飛び、運動会(体育祭)、構成的グループエンカウンター等

--

10 あなたは、どのような児童生徒の姿をねらいながら人間関係づくりを進めていますか。下記の項目から上位3つを選び、重視している順に「1」「2」「3」と回答欄に番号を記入してください。なお、下記項目以外に考えていることがあれば、「その他」の空欄に具体的な内容を記入してください。

	項目	回答欄		項目	回答欄
①	自分のことを大切にできる		⑦	みんなで話し合えることができる	
②	他者のことを大切にできる		⑧	他者の意見を聴くことができる	
③	自分の考えを適切に述べることができる		⑨	決まりや約束を守ることができる	
④	困っている人に声をかけることができる		⑩	自分の感情をコントロールすることができる	
⑤	困った時に他者に支援を求めることができる		⑪	違い(差異性)を大切にすることができる	
⑥	誰とでも付き合えることができる		その他		

11 あなたは、人間関係づくりの取組を進めるうえで、教職員が大切にしなければならないことは何だと考えていますか。下記の項目から上位3つを選び、順に「1」「2」「3」と回答欄に番号を記入してください。なお、下記項目以外に考えていることがあれば、「その他」の空欄に具体的な内容を記入してください。

	項目	回答欄		項目	回答欄
①	強制しない		⑨	児童生徒の課題を明確にする	
②	感情的に怒らない		⑩	児童生徒の話を聴く	
③	しかるべき時にしかる		⑪	児童生徒の個人の高める	
④	一人ひとりに気を配る		⑫	児童生徒の主体性を尊重する	
⑤	日常的に行う		⑬	児童生徒の立場になって考える	
⑥	声かけをする		⑭	教職員同士がモデリングを意識する	
⑦	活動の目的(ねらい)を明確にする		⑮	教職員と児童生徒がつながる	
⑧	課題のある児童生徒を中心にすすめる		その他		

12 あなたの学校では、人間関係づくりの取組をどのような体制で行っていますか（該当するもの1つに「○」印）。

（ 1. 学校全体      2. 学年団      3. 正副主任      4. 仲間      5. 個人 ）

13 あなたの学校では、人間関係づくりの取組が定期的に実施できるように計画されていますか（該当するもの1つに「○」印）。

（ 1. 計画されている      2. ある程度計画されている  
3. あまり計画されていない      4. 計画されていない ）

14 あなたの学校では、人間関係づくりの取組の内容を充実させるために一年間の活動を系統的に行っていますか（該当するもの1つに「○」印）。

（ 1. 行っている      2. ある程度行っている      3. あまり行っていない      4. 行っていない ）

15 現在、あなたが人間関係づくりの取組を進めるうえで悩んでいること（課題）があれば、自由に記入してください。

#### IV 「人間関係づくり」に関する次の質問にお答えください。

16 あなたが下記の1～5の活動で実践したことがあるものに「○」印を付けてください（複数可）。なお、1つも該当する活動がない方は、「6」に「○」印を付けてください。

（ 1. 構成的グループエンカウンター      2. 心の冒険教育（PA）  
3. ソーシャルスキルトレーニング      4. アサーショントレーニング  
5. ピアサポート      6. 該当の活動なし ）

17 「質問16」で6以外に「○」印を付けた人にお聞きします。その取組後、その活動を生かすための実践を何かしていれば、具体的にどのような実践をしたのか記入してください。

お疲れ様でした。御協力ありがとうございます。 ←

## 資料6：アンケートに関するクロス集計結果

### 資料6-1：人間関係づくりを通じてねらっている児童生徒像と校種・年代のクロス集計結果

「質問10 あなたは、どのような児童生徒の姿をねらいながら人間関係づくりを進めていますか。下記の項目から上位3つを選び、重視している順に『1』『2』『3』と回答欄に番号を記入してください」の回答について、項目ごとに1位に挙げた場合は3点、2位に挙げた場合は2点、3位に挙げた場合は1点で得点化し、合計した数値を回答者数で割った後、その数値に「30」を掛けた（数値を見やすくするため）。この結果と校種・年代のクロス集計結果について、次の表：資料6-1に示す。

表：資料6-1 1～3位に挙げられた「ねらい」と校種・年代のクロス集計結果  
(n=682 単位：点)

	どのような児童生徒の姿をねらいながら人間関係づくりを進めていますか											
	自分のことを大切にできる	他者のことを大切にできる	自分の考えを適切に述べるができる。	困っている人に声をかけることができる	困った時に他者に支援を求めることができる	誰とも付き合うことができる	みんなで話し合うことができる	他者の意見を聴くことができる	決まりや約束を守ることができる	自分の感情をコントロールすることができる	違い(差異性)を大切にすることができる	
全体	49.3	43.9	9.5	7.5	5.1	5.1	9.4	15.9	14.3	8.1	12.0	
校種	小学校	55.8	54.5	8.3	8.3	5.6	4.3	6.0	14.3	7.0	4.3	11.6
	中学校	46.9	53.2	8.7	7.7	3.4	7.3	11.6	15.5	10.2	4.4	11.1
	高等学校	37.2	58.2	4.1	4.1	2.0	3.4	11.5	20.3	20.3	9.5	9.5
	特別支援学校	61.6	44.0	8.8	2.9	4.9	2.9	3.9	14.7	16.6	13.7	5.9
年代	20代	50.8	50.8	13.2	4.6	5.1	0.5	6.1	14.7	15.3	10.7	8.1
	30代	55.7	49.4	8.7	4.3	4.6	5.8	10.1	11.9	14.8	6.1	8.5
	40代	46.2	40.3	9.4	8.4	5.0	6.4	8.6	16.5	15.0	7.9	16.2
	50代	46.9	41.7	9.1	10.4	5.7	3.9	10.9	19.3	12.2	9.6	10.4

#### 全体の結果

1位のみを集計結果と比較すると、「他者のことを大切にできる」(43.9点)の割合が高くなった。また、上位2つの項目は同じであったが、三番目に割合が高い項目については、「決まりや約束を守ることができる」(14.3点)から「他者の意見を聴く」(15.9点)となった。

#### 校種別の結果

1位のみとの違いは、中学校と高等学校において、「他者のことを大切にできる」(中学校：53.2点、高等学校：58.2点)の割合が最も高くなり、「自分のことを大切にできる」(中学校：46.9点、高等学校：37.2点)と逆転したことである。

また、三番目についても「決まりや約束を守ることができる」(中学校：10.2点、高等学校：20.3点)から「他者の意見を聴くことができる」(中学校：15.5点、高等学校：20.3点)となったことである。

なお、特別支援学校については、上位3つに入っていなかった「他者のことを大切にできる」(44.0点)が、二番目に割合が高くなっていた。

#### 年代別の結果

1位のみとの違いは、40代・50代において三番目に割合が高い項目として、「他者の意見を聴くことができる」(40代：16.5点、50代：19.3点)が挙げたことである。

なお、20代・30代は「決まりや約束を守る」(20代：15.3点、30代：14.8点)が三番目に割合が高い項目となっており、ここに年代の高低による違いが見られた。

## 資料6-2：人間関係づくりの取組を進めるうえで、教職員が大切にすべきことと校種・年代のクロス集計結果

「質問 11 あなたは、人間関係づくりの取組を進めるうえで、教職員が大切にしなければならないことは何だと考えていますか。下記の項目から上位3つを選び、順に『1』『2』『3』と回答欄に番号を記入してください」の回答について、項目ごとに1位に挙げた場合は3点、2位に挙げた場合は2点、3位に挙げた場合は1点で得点化し、合計した数値を回答者数で割った後、その数値に「30」を掛けた（数値を見やすくするため）。この結果と、校種・年代のクロス集計結果について、次の表：資料6-2に示す。

表：資料6-2 1～3位に挙げられた「大切にすべきこと」と校種・年代のクロス集計結果

(n=682 単位：点)

		人間関係づくりの取組を進めるうえで、教職員が大切にしなければならないこと														
		強制しない	感情的に怒らない	しかるべき時にしかる	一人ひとりに気を配る	日常的に行う	声がけをする	活動の目的(ねらい)を明確にする	課題のある児童生徒を中心にすすめる	児童生徒の課題を明確にする	児童生徒の話を聴く	児童生徒の個人力を高める	児童生徒の主体性を尊重する	児童生徒の立場になって考える	教職員同士がモデリングを意識する	教職員と児童生徒がつながる
全体		8.3	8.8	9.9	24.5	19.3	16.3	10.1	8.0	13.1	21.8	4.4	7.2	9.8	2.3	16.2
校種	小学校	8.2	8.5	7.9	27.7	18.4	11.2	9.9	13.4	12.7	23.2	3.5	4.4	10.0	2.4	18.6
	中学校	8.2	5.2	9.2	26.9	23.7	14.2	12.6	8.9	14.4	16.5	3.4	7.1	6.5	2.4	21.0
	高等学校	5.6	11.1	13.8	19.4	14.9	31.6	8.3	1.4	6.5	23.2	7.2	10.8	13.8	2.5	9.9
	特別支援学校	12.4	13.7	12.1	17.9	19.2	13.4	8.2	0.0	20.9	26.1	4.9	10.4	10.4	1.6	8.8
年代	20代	6.6	7.1	6.1	25.4	18.8	23.4	8.1	7.1	6.1	20.8	6.1	13.2	10.7	2.0	18.3
	30代	6.6	10.1	11.6	25.1	22.7	18.1	9.4	4.6	9.0	28.6	2.7	6.6	9.2	2.2	13.5
	40代	8.3	8.4	10.2	23.8	19.5	15.1	11.1	9.7	13.3	19.5	5.8	7.2	8.8	2.9	16.3
	50代	10.4	8.7	9.2	24.8	15.8	13.9	9.9	9.1	18.9	18.8	3.4	5.9	11.6	1.7	18.1

### 全体の結果

1位のみとの結果と比べて、全体の結果は大きく変わっていない。

### 校種別の結果

小学校では「日常的に行う」(18.4点)、高等学校では「一人ひとりに気を配る」(19.4点)、特別支援学校では「日常的に行う」(19.2点)の割合が高くなった。

### 年代別の結果

20代・50代ともに「児童生徒の話を聴く」(20代：20.8点、50代：18.8点)の割合が高くなり、この項目については、すべての年代において割合の高い上位3つに入った。

## 資料7：アンケートに関するカイ2乗検定及び分散分析結果

※分散分析を行うにあたり、次の処理を実施している。

- (1) 校種については、小学校を「1」、中学校を「2」、高等学校を「3」、特別支援学校を「4」とした。
- (2) 年代については、20歳以上を「1」、30歳以上を「2」、40歳以上を「3」、50歳以上を「4」とした。

### 資料7-1：取組体制と校種の分散分析結果

※「質問12 組織的な体制」の回答について、学校全体を「5」、学年団を「4」、正副主任を「3」、仲間を「2」、個人を「1」として統計処理を行った。

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	判定
校種	グループ間	98.155	3	32.718	13.019	.000	**
	グループ内	1703.870	678	2.513			

有意確率の判定についての表記は、\*は $P < .05$ 、\*\*は $P < .01$ と示す（以下同じ）。

#### 多重比較

(I) 問1	(J) 問1	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率	判定
小学校	中学校	0.417	0.151	.029	*
	高等学校	-0.571	0.168	.004	**
	特別支援	-0.529	0.191	.029	*
中学校	小学校	-0.417	0.151	.029	*
	高等学校	-0.988	0.180	.000	**
	特別支援	-0.945	0.202	.000	**
高等学校	小学校	0.571	0.168	.004	**
	中学校	0.988	0.180	.000	**
	特別支援	0.042	0.215	.997	
特別支援	小学校	0.529	0.191	.029	*
	中学校	0.945	0.202	.000	**
	高等学校	-0.042	0.215	.997	

### 資料7-2：取組体制と年代の分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	判定
年代	グループ間	22.04	3	7.35	2.80	.04	*
	グループ内	1779.99	678	2.63			

#### 多重比較

(I) 問3	(J) 問3	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率	判定
20歳以上	30歳以上	-0.032	0.244	.999	
	40歳以上	0.374	0.233	.376	
	50歳以上	0.315	0.243	.566	
30歳以上	20歳以上	0.032	0.244	.999	
	40歳以上	0.406	0.157	.048	*
	50歳以上	0.347	0.172	.181	
40歳以上	20歳以上	-0.374	0.233	.376	
	30歳以上	-0.406	0.157	.048	*
	50歳以上	-0.059	0.156	.982	
50歳以上	20歳以上	-0.315	0.243	.566	
	30歳以上	-0.347	0.172	.181	
	40歳以上	0.059	0.156	.982	



### 資料 7-3 : 取組の計画性と校種の分散分析結果

※「質問 13 取組の計画性」の回答について、「計画されている」を「4」、「ある程度計画されている」を「3」、「あまり計画されていない」を「2」、「計画されていない」を「1」として統計処理を行った。

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	判定
校種	グループ間	11.915	3	3.972	4.131	.006	**
	グループ内	651.805	678	0.961			

#### 多重比較

(I) 問1	(J) 問1	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率	判定
小学校	中学校	0.146	0.093	.397	
	高等学校	-0.140	0.104	.532	
	特別支援	-0.247	0.118	.158	
中学校	小学校	-0.146	0.093	.397	
	高等学校	-0.287	0.111	.050	*
	特別支援	-0.393	0.125	.009	**
高等学校	小学校	0.140	0.104	.532	
	中学校	0.287	0.111	.050	*
	特別支援	-0.106	0.133	.855	
特別支援	小学校	0.247	0.118	.158	
	中学校	0.393	0.125	.009	**
	高等学校	0.106	0.133	.855	

### 資料 7-4 : 取組の計画性と性別のカイ 2 乗検定結果

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)	判定
Pearson のカイ 2 乗	9.518	3	.023	*
尤度比	9.650	3	.022	
線型と線型による連関	2.488	1	.115	
有効なケースの数	682			

### 資料 7-5 : 取組の系統性と校種の分散分析結果

※「質問 14 取組の系統性」の回答について、「行っている」を「4」、「ある程度行っている」を「3」、「あまり行っていない」を「2」、「行っていない」を「1」として統計処理を行った。

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	判定
校種	グループ間	9.012	3	3.004	3.620	.013	**
	グループ内	562.578	678	0.830			

多重比較

(I) 問1	(J) 問1	平均値の 差 (I-J)	標準誤差	有意確率	判定
小学校	中学校	0.171	0.087	.196	
	高等学校	-0.098	0.097	.742	
	特別支援	-0.158	0.110	.477	
中学校	小学校	-0.171	0.087	.196	
	高等学校	-0.269	0.104	.046	*
	特別支援	-0.329	0.116	.024	*
高等学校	小学校	0.098	0.097	.742	
	中学校	0.269	0.104	.046	*
	特別支援	-0.060	0.124	.963	
特別支援	小学校	0.158	0.110	.477	
	中学校	0.329	0.116	.024	*
	高等学校	0.060	0.124	.963	

資料7-6:「人間関係づくり」の必要性と校種の分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	判定
校種	グループ間	2.502	3	0.834	4.090	.007	**
	グループ内	138.243	678	0.204			

多重比較

(I) 問1	(J) 問1	平均値の 差 (I-J)	標準誤差	有意確率	判定
小学校	中学校	-0.072	0.043	.340	
	高等学校	-0.140	0.048	.018	*
	特別支援	-0.146	0.054	.037	*
中学校	小学校	0.072	0.043	.340	
	高等学校	-0.069	0.051	.539	
	特別支援	-0.074	0.058	.569	
高等学校	小学校	0.140	0.048	.018	*
	中学校	0.069	0.051	.539	
	特別支援	-0.006	0.061	1.000	
特別支援	小学校	0.146	0.054	.037	*
	中学校	0.074	0.058	.569	
	高等学校	0.006	0.061	1.000	

資料7-7:「人間関係づくり」の必要性と性別のカイ2乗検定結果

	値	自由度	漸近有意確率 (両側)	判定
Pearson のカイ2乗	8.941	3	.030	*
尤度比	9.673	3	.022	
線型と線型による連関	1.366	1	.243	
有効なケースの数	682			

資料7-8:「人間関係づくり」の必要性と取組体制の分散分析結果

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	判定
取組体制	2.713	4	0.678	3.326	.010	*
	138.032	677	0.204			

多重比較

(I) 問12	(J) 問12	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率	判定
学校全体	学年団	-0.059	0.044	.663	
	正副主任	-0.243	0.084	.032	*
	仲間	0.052	0.091	.979	
	個人	-0.106	0.044	.112	
学年団	学校全体	0.059	0.044	.663	
	正副主任	-0.185	0.087	.208	
	仲間	0.110	0.093	.761	
	個人	-0.047	0.048	.865	
正副主任	学校全体	0.243	0.084	.032	*
	学年団	0.185	0.087	.208	
	仲間	0.295	0.118	.090	
	個人	0.137	0.087	.512	
仲間	学校全体	-0.052	0.091	.979	
	学年団	-0.110	0.093	.761	
	正副主任	-0.295	0.118	.090	
	個人	-0.158	0.094	.441	
個人	学校全体	0.106	0.044	.112	
	学年団	0.047	0.048	.865	
	正副主任	-0.137	0.087	.512	
	仲間	0.158	0.094	.441	

資料7-9:「人間関係づくり」の必要性と取組の系統性の分散分析結果

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	判定	
系統性	グループ間	1.691	3	0.564	2.748	.042	*
	グループ内	139.054	678	0.205			

多重比較

(I) 問14	(J) 問14	平均値の差 (I-J)	標準誤差	有意確率	判定
行っている	ある程度行っている	-0.085	0.063	.532	
	あまり行っていない	-0.115	0.063	.262	
	行っていない	-0.182	0.067	.035	*
ある程度行っている	行っている	0.085	0.063	.532	
	あまり行っていない	-0.030	0.042	.895	
	行っていない	-0.096	0.048	.184	
あまり行っていない	行っている	0.115	0.063	.262	
	ある程度行っている	0.030	0.042	.895	
	行っていない	-0.067	0.048	.495	
行っていない	行っている	0.182	0.067	.035	*
	ある程度行っている	0.096	0.048	.184	
	あまり行っていない	0.067	0.048	.495	

資料7-10:「家族的なイメージ」に関する分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	判定
年代	グループ間	48.310	3	16.103	1.069	.362	
	グループ内	10214.548	678	15.066			
校種	グループ間	113.984	3	37.995	2.538	.056	
	グループ内	10148.874	678	14.969			
必要性	グループ間	968.161	3	322.720	23.541	.000	**
	グループ内	9294.697	678	13.709			
取組体制	グループ間	217.256	4	54.314	3.660	.006	**
	グループ内	10045.602	677	14.838			
計画性	グループ間	191.318	3	63.773	4.293	.005	**
	グループ内	10071.540	678	14.855			
系統性	グループ間	221.111	3	73.704	4.976	.002	**
	グループ内	10041.746	678	14.811			

多重比較 (必要性)

(I) 問5	(J) 問5	平均値の 差 (I-J)	標準誤差	有意確率	判定
そう思う	ややそう思う	-2.643	0.366	.000	**
	あまりそう思わない	-5.555	1.408	.000	**
	思わない	-6.698	2.623	.052	
ややそう思う	そう思う	2.643	0.366	.000	**
	あまりそう思わない	-2.913	1.438	.178	
	思わない	-4.056	2.639	.415	
あまりそう思わない	そう思う	5.555	1.408	.000	**
	ややそう思う	2.913	1.438	.178	
	思わない	-1.143	2.969	.981	
思わない	そう思う	6.698	2.623	.052	
	ややそう思う	4.056	2.639	.415	
	あまりそう思わない	1.143	2.969	.981	

多重比較 (計画性)

(I) 問13	(J) 問13	平均値の 差 (I-J)	標準誤差	有意確率	判定
計画されている	ある程度計画されている	-0.802	0.467	.315	
	あまり計画されていない	-1.120	0.480	.090	
	計画されていない	-1.735	0.501	.003	**
ある程度計画されている	計画されている	0.802	0.467	.315	
	あまり計画されていない	-0.318	0.372	.828	
	計画されていない	-0.934	0.400	.090	
あまり計画されていない	計画されている	1.120	0.480	.090	
	ある程度計画されている	0.318	0.372	.828	
	計画されていない	-0.615	0.415	.447	
計画されていない	計画されている	1.735	0.501	.003	**
	ある程度計画されている	0.934	0.400	.090	
	あまり計画されていない	0.615	0.415	.447	

多重比較（取組体制）

(I) 問12	(J) 問12	平均値の 差 (I-J)	標準誤差	有意確率	判定
学校全体	学年団	-0.502	0.372	.659	
	正副主任	-1.167	0.719	.483	
	仲間	-0.111	0.777	1.000	
	個人	-1.374	0.375	.002	* *
学年団	学校全体	0.502	0.372	.659	
	正副主任	-0.665	0.740	.898	
	仲間	0.391	0.796	.988	
	個人	-0.872	0.414	.216	
正副主任	学校全体	1.167	0.719	.483	
	学年団	0.665	0.740	.898	
	仲間	1.056	1.007	.833	
	個人	-0.208	0.742	.999	
仲間	学校全体	0.111	0.777	1.000	
	学年団	-0.391	0.796	.988	
	正副主任	-1.056	1.007	.833	
	個人	-1.263	0.798	.508	
個人	学校全体	1.374	0.375	.002	* *
	学年団	0.872	0.414	.216	
	正副主任	0.208	0.742	.999	
	仲間	1.263	0.798	.508	

多重比較（系統性）

(I) 問14	(J) 問14	平均値の 差 (I-J)	標準誤差	有意確率	判定
行っている	ある程度行っている	0.125	0.537	.996	
	あまり行っていない	-0.875	0.535	.358	
	行っていない	-1.249	0.571	.127	
ある程度行っている	行っている	-0.125	0.537	.996	
	あまり行っていない	-1.000	0.355	.025	*
	行っていない	-1.373	0.407	.004	* *
あまり行っていない	行っている	0.875	0.535	.358	
	ある程度行っている	1.000	0.355	.025	*
	行っていない	-0.374	0.404	.791	
行っていない	行っている	1.249	0.571	.127	
	ある程度行っている	1.373	0.407	.004	* *
	あまり行っていない	0.374	0.404	.791	

資料7-11:「友だち的なイメージ」に関する分散分析結果

		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	判定
必要性	グループ間	632.437	3	210.812	31.150	.000	**
	グループ内	4588.449	678	6.768			

多重比較

(I) 問5	(J) 問5	平均値の 差 (I-J)	標準誤差	有意確率	判定
そう思う	ややそう思う	-2.063	0.257	.000	**
	あまりそう思わない	-4.674	0.990	.000	**
	思わない	-6.317	1.843	.003	**
ややそう思う	そう思う	2.063	0.257	.000	**
	あまりそう思わない	-2.611	1.010	.048	*
	思わない	-4.254	1.854	.099	*
あまりそう思わない	そう思う	4.674	0.990	.000	**
	ややそう思う	2.611	1.010	.048	*
	思わない	-1.643	2.086	.860	
思わない	そう思う	6.317	1.843	.003	**
	ややそう思う	4.254	1.854	.099	
	あまりそう思わない	1.643	2.086	.860	